

## 支部便り

## 軽金属学会関東支部第9回若手研究者ポスター発表会開催報告

### Report on the 9th annual meeting on poster presentation of Kanto Branch of the Japan Institute of Light Metals

萩原 健太

Kenta HAGIWARA

2023年10月20日(金)に群馬大学太田キャンパスにて、軽金属学会関東支部が主催する2023年度第9回若手研究者ポスター発表会が開催された。本発表会は、軽金属に関する最先端の研究にふれ各分野への理解を深めることに加えて、これからの軽金属学会を担う若手研究者同士が議論し交流することを目的とした研究発表行事である。会場となった群馬大学太田キャンパスは東武鉄道太田駅からほど近く、太田駅には特別急行列車も発着することから、首都圏から比較的アクセスしやすい場所であった。また、2024年11月に開催される軽金属学会第147回秋期大会の会場でもあり、本発表会は一足早く会場を使用させてもらった形となった。

本発表会は平日の対面実施での開催であったにもかかわらず、61名の参加があった。大学生・大学院生、教員に加えて、高専生や企業所属の研究者の方々の参加もあり、産学を結ぶ交流の場として大いに機能していた。発表件数は37件で、計20の研究室および部署から研究発表が行われた。ポスターは見通しの良い研修室とそこに隣接するラウンジに掲示され、発表者は前後半に分かれて、各60分、自由討論時間30分の計90分間で研究発表と質疑応答を通じた深い議論が交わされていた(図1)。発表は軽金属を研究対象としたものではあるが、材料や物性、 casting, 表面処理, 接合, 応用など幅広い分野に関する内容であり、軽金属研究の広さとこれからの工学的発展を感じさせる発表会であった。本発表会が初の学会発表となった学生や、参加者からの予想もしていなかった質問に困惑する発表者も見られ、さまざまな意味で良い経験になったと思われる。また、新しい発表形式の導入を目的に、ポスター掲示会場にいる聴講者と別室にいる発表者がオンラインで発表および質疑応答を行うハイブリッド形式を試行するなどが群馬大学の学生たちにより実施されていたのも印象的であった。

関東支部の研究発表行事では4年ぶりとなる懇親会も発表会終了後に開催され、本発表会の目的のひとつでもある若手研究者同士の交流が談笑とともに見受けられた。懇親会では参加者による研究室・部署紹介(図2)も行われ、研究発表だけでは知ることのできない発表者の所属研究室および部署の雰囲気や環境などの特徴、個性豊かな特色が感じられるものとなった。

懇親会の最後には、本発表会の最優秀ポスター賞と優秀ポスター賞の発表が行われ、阿相支部長より賞状が授与された。本発表会では各発表に対して4名以上の審査員が評価し、

各賞の受賞者を選考した。審査の結果、以下の2件が最優秀ポスター賞を受賞した。

東海林 瑞希(芝浦工業大学)「モンテカルロシミュレーションを用いた時効硬化型Al合金におけるナノクラスタおよびGPゾーン形成の支配因子の解析」

岩瀬 広也(千葉大学)「Mg-Co-Y合金へのCu, Zn添加によるLPSO相の高温安定性」

また、稲川 和希(工学院大学)、茂手木 信(芝浦工業大学)、高橋 浩輝(芝浦工業大学)、半田 優斗(千葉大学)、石井 裕樹(茨城大学)、安原 駿(群馬大学)、高木 樹(群馬大学)、鈴木 巽(群馬大学)、土田 菜摘(早稲田大学)の9名(敬称略)が優秀ポスター賞を受賞した。最優秀ポスター賞ならびに優秀ポスター賞を受賞された皆様をお祝いするとともに、今後の軽金属研究分野でのご活躍を願っている。

来年度の関東支部研究発表行事は時期、開催地ともに未定であるが、大学、企業を問わず、多くの方にご参加いただけるよう、関東支部運営委員一同、企画・準備を進める所存である。

最後に、本発表会を開催するにあたり、ご協力いただいた先生方、企業の方々、会場をご準備いただいた群馬大学の皆様に御礼申し上げる。

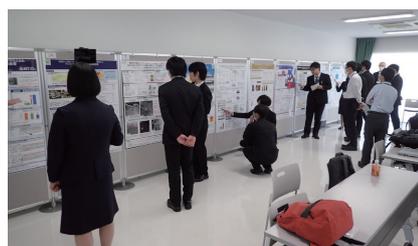


図1 ポスター発表の様子



図2 懇親会での研究室・部署紹介の様子